



駒澤会だより

第21号

2014年7月28日

駒澤大学駒澤会発行



会長の御挨拶

会長 森屋正治

5月24日に開かれました駒澤会委員総会に於いて、引き続き駒澤会会長を仰せつかりました。前任中は会員の皆様に大変お世話になり、皆様の支えのもと全うすることができました。この場をお借りして御礼申し上げます。駒澤大学は開校130周年記念事業の計画がほぼ固まり、いよいよ記念棟建設着工にとりかかろうとしております。そういった中、駒澤会会長を務めさせていただくには皆様方の御支援御協力が不可欠です。引き続き皆様方の変わらぬ御支援御協力を賜りますようお願い申し上げます。

本会は昭和43年に父兄会（現教育後援会）OB有志の方々が卒業後の相互親睦をはかり大学興隆発展の為、特に奨学金給付制度を確立して少しでも大学また学生に寄与していきたいと云う念願で創立されました。そして、平成23年には本会創立40周年を迎え記念事業を行い、平成24年には奨学金給付者が累計1,000人を越えました。奨学金は毎年25人に給付し、多くの学生から感謝の言葉を頂いております。5月の委員総会では更なる奨学金制度の充実、より一層の大学への御支援を考え、永年大学当局をお願いして参りました本会会費の「代理徴収」についての「嘆願書」を当局へ提出することで承認を得ました。代理徴収が実現すれば本会の活動の活性化に繋がり、また本会の安定的な原資の確保が可能となり、大学への御支援が増すこととなります。本会が今後50年、70年、そして100年と歴史を刻んでいけるよう地盤作りに尽力して参ります。

本会として、未来ある学生のため、大学のためにできることは何かを再度考え、役員と協議のうえ会を運営して参る所存です。再任にあたり既存の考えにとらわれず新しい取り組みを実現できるよう努力して参ります。また、教育後援会・同窓会とも連携を強化していく所存です。

最後に、改めて会員の皆様、関係各位の日頃の運営の御支援御協力に感謝申し上げますと共に、変わらぬご支援とご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます御挨拶と致します。

※開校130周年記念棟は、現在の体育館・9号館を取り壊し、跡地に地上9階地下1階の教場（食堂等を含む）が建設されます。

平成26年度駒澤会委員総会



委員総会報告

広報部副部長 松浦雅人

平成26年度駒澤大学駒澤会委員総会は5月24日（土）午後1時より駒澤大学深沢校舎の講義室2-1において開催されました。

初めに森屋正治駒澤会会長より、駒澤会奨学金育英制度40年間の意義と歩みを駒澤会の歴史に触れながらご挨拶を述べられました。

議事は会則に則り、森屋会長が議長となり進行いたしました。第一号議案は総務部より山田直重部長、広報部より荒井喜久子部長、厚生部より木村朋子部長からそれぞれ「25年度活動報告」がなされました、第二号議案においては「25年度決算報告及び基金管理状況報告」として田中隆一副会長より報告がなされました。また第三号議案では「会計監査報告」が吉田洋一監査より行われました。

第4号議案では「既定の審議」、第5号議案では「会長・副会長・監査役等役員の選任」、第6号議案では「平成26年度各部活動報告」が各部部长より再度発表されました。また第7号議案では田中隆一副会長からその予算案の説明がなされました。そして第8号議案においては「その他」として駒澤大学130周年記念棟建設への募金についての審議となりましたが、駒澤会の生命線となる基金との関係も絡む重要な問題であり、執行部一任ということとなりました。またその基金の今後の募集方法については「会費の代理徴収」という嘆願書を学校側に提出し、新たな試みに一歩踏み込むこととなりました。

以上、ここまで、全議案滞りなくお諮り戴きました。

途中、三宅哲也委員より報告書の第2号議案における26年度繰越金表示の不適切をご指摘戴きましたが、その後、記載時の錯誤表示と判明しましたので、後日、修正書面を会員に郵送にて配布させて戴きました。



駒澤会の懇親会に参加して

教育後援会会長 堀 純一郎

私自身、駒澤会年次総会後の懇親会への出席は、今回が3回目となりました。執行部に所属してから毎回参加させていただいておりますが、何よりも嬉しかったのは、今回は教育後援会より男女合わせて11名もの参加者があったことです。前回は3名でしたので大幅増。会長に就任して一週間後のこの会に、大勢の参加者があったことは会長冥利につきます。今回は駒澤会の皆様と教育後援会のメンバーが十分交流できたのではないかと感じております。

しかも高橋顧問（教育後援会の前会長）が、その場で駒澤会への入会を決めたことで大いに会場が沸きました。その歓迎ムードの中、私自身もその直後に入会を宣言し、年会費1万円を現金で支払い会員として仲間入りさせていただきました。

すでに入会済みだった川岸先輩の挨拶で「年会費は月々に換算すると数百円。これで学生の皆さんの支援ができるのなら安いものです」という言葉に感銘を受けたのも、私が入会を決めた理由の一つです。

駒澤大学で学ぶ我が子は卒業したら同窓会という立場で駒澤大学とずっと関係を維持することができますが、その保護者は駒澤大学の卒業生でない場合、大学との繋がりがなくなります。駒澤会に入会すれば、大学および関係者の皆さんと繋がっていただけるのです。九州の大学を出た私にとって、今や卒業した母校以上に駒澤大学に愛着を感じております。

引き続き、駒澤会と教育後援会が一致団結して学生の皆さんを支援するとともに、駒澤大学の魅力を広めていくPR大使としても尽力していく所存です。



駒澤会新役員紹介

役員任期：平成26年5月～平成28年5月



会長
森屋 正治



副会長
一戸 隆男



副会長
田中 隆一



副会長
三崎 章子



監査
赤堀 菊絵



監査
鈴木 康元



監査
市川 よし子



総務部部長
山田 直重



総務部副部長
久野 文代



総務部副部長
吉田 洋一



広報部部長
荒井 喜久子



広報部副部長
松浦 雅人



広報部副部長
村田 保廣



厚生部部長
木村 朋子



厚生部副部長
滝沢 憲示



厚生部副部長
三浦 ひろ子



教育後援会会長
参与 堀 純一郎

駒澤会参与のご紹介

平成26年度も教育後援会の
会長・副会長に参与をお勤め
いただいております。

更なる駒澤会の発展のため、
若いお力を頂戴できればと
思います。



教育後援会副会長
参与 蛭田 博幸

大相撲 松鳳山関とお母様を訪ねて

今回は大相撲で活躍している松鳳山関の登場です。土俵の上ではいつも鋭い表情の松鳳山関。今回の取材では終始穏やかにインタビューの質問に応じていただきました。

インタビュー：子供の頃に抱いていた夢や、相撲を始めたきっかけなどを聞かせてください。

松 鳳 山：中学生の時は野球部だったので甲子園に行きたいと思ってました。でも、2年の終わりで野球部はやめちゃったんです、先生が厳しかったんで。(一同笑) 3年の時は柔道部にいました。その時もせいぜい県大会に行って勝つことぐらいしか考えてなかったです。小学生の頃から体がでかかったので、毎年地域の相撲大会には出て、県大会でも優勝したので幾つかの高校の柔道部や相撲部からスカウトされました。担任の先生と話したら「お前は絶対相撲に向いてるぞ、相撲に行ったほうが良い」と奨められました。

インタビュー：その頃の身長、体重はどれぐらい？

松 鳳 山：野球部の時は身長は173センチしかなかったです。体重は70キロぐらいだったのですが柔道部に入ってから増えて、卒業時は100キロ超えてました。ともかく食べました。日に5～6食食べてた勘定です。家は福岡県ですが高校は大分の相撲の名門校にいきました。監督から「食べろ、太れ」と言われ、家では自分だけ特別メニューで、週に1～2回は焼肉だったです。

インタビュー：お母さんは大変だったんだ、食費が。(一同笑)

松 鳳 山：それが、高校に入った時は練習がきつくて逆に痩せました。入学した時は107キロありましたが100キロ切るくらいに下がったです。夏に体重測定したら、みんな(1年生)5キロから10キロ下がったです。中学の野球部は練習が厳しかったから辞めたのに、それ以上に厳しくて、先生も怖くて、怖すぎて“辞める”って言えなくて続けていたら力がついてきて、1年の途中からレギュラーになりました。2年生になった時は3年生を抜いて県のトップクラスになってました。

インタビュー：厳しいと精神力とか気合とかが磨かれて、強くなりますでしょ。

松 鳳 山：なりますね。ほんとに厳しかったけど相撲が楽しくなってきたし、チームとしての纏まりもすごいあったんですよ。だから・・・もう・・・楽しかったですね。良い思い出です。

インタビュー：大学はなぜ駒澤を選んだんです？

松 鳳 山：駒大の監督さんから高校2年生ごろから誘われてました。大分県の先輩とか先生(相撲を指導してる方)に駒澤出身の方がいらしたので、ごく自然に相撲で駒澤大学に行かせてもらいました。高校の時も大学の時も良い先生に引っ張っていただきました。

インタビュー：高校の先生は厳しかったということだけど、大学での指導はどうでしたか。

松 鳳 山：大学では・・・もう一回、基礎を言われたです。館岡監督にはずっと基礎を言われ続けて、相撲取るより先に【基礎】です。相当厳しかったです。

インタビュー：基礎というのは？

松 鳳 山：四股、摺足、鉄砲、腕立てなど体を作る基礎をずっと言われました。四股の踏み方とか、すごいうるさく言われて、ウワァー厳しいな～と。お陰でプロに入って若い子達に言う時に、ちゃんと言えてます、こういう四股を踏まなきゃ駄目だと。

インタビュー：高校の時も、四股とか鉄砲とか基礎をすごい量やるんでしょ？

松 鳳 山：やりましたね。でも、大学の方が基礎は厳しかったです。今でも稽古始まる時、四股踏んで、摺足、鉄砲やって・・・思い出しますね、監督に言われたことを。

インタビュー：松ヶ根部屋に入ると決めたのはどんな理由で？女将さんが昔、歌手だったということは知ってました？

松 鳳 山：大相撲に行こうと決めたとき、最初に声を掛けてくれる所に行こうと思っていました。最初にスカウトしてくれたのが松ヶ根親方でした。女将さんがアイドルだったのは部屋に着てから知りました。

インタビュー：松鳳山という四股名は大谷先生の命名で【鳳】は大谷先生の山（寺）号の一字だと聞いてますが。

松 鳳 山：親方に頼んだら、大学の先生に付けてもらうのが良いんじゃないかと言ってきて、それで館岡監督に話したら、“それは大谷先生に付けて貰え”と。大谷先生から幾つか候補を示して頂いたけど、松ヶ根部屋の松、松谷（本名）の松、鳳凰は舞い上がってゆく（出世する）ので良いんじゃないかということで、松鳳山に決めました。

インタビュー：相撲界の指導は厳しいとメディアでも伺いますが、指導者から活を入られた経験はありましたか。

松 鳳 山：いや、ありますよ。監督さんに、ケツをバシッて叩かれてましたよ。

インタビュー：竹刀で？

松 鳳 山：いや、警策（キョウサク = 坐禅で使う）で。・・・（やはり駒澤！と一同爆笑）叩かれるだけの理由がありましたからね。

インタビュー：白鵬関とやった時はどうでした？

松 鳳 山：一番最初はすごく緊張しました。結びの一番でとる雰囲気って普通じゃないんですよ。土俵にあがると今まであがってた土俵じゃないような感じがするんです。毎日やってるのに雰囲気全然違うんです、結びの一番だけは。

インタビュー：日馬富士関に勝った時、泣きましたね。

松 鳳 山：相撲やってて、横綱に勝つというのは目標ですからね。特別なものだったですね、あれは。結びの一番で横綱に勝ったら座布団が舞います。舞ってるのを見たら下から感情がブワーっと上がってきて、ふと我に返ったです。この前30歳になったんですが、30年のなかで一度も味わったことのない何ともいえない感情だったです。足のところから感情が上がってくるのが分る感じでした。あんな感情は初めてでした。



インタビュー：ご結婚おめでとうございます。奥様は昔からお付き合いしてた方ですか？

松 鳳 山：いえ、付き合って1年です。丁度自分は大阪に出稽古に行っていたんです。

稽古先の宿舎の方の紹介で、話したら福岡の人だったんです。

離れた土地で同じ県の人に会うとテンション上がりますよね。

食事何回かして付き合うようになりました。

インタビュー：松ヶ根部屋で生活したのは何年ぐらいですか？

部屋を出たのはいつ？

松 鳳 山：半年ちょっと前に部屋を出ました。

部屋で生活したのは大学出てから7年です。

インタビュー：その間は、女将さんが第二の母親だったわけね。

松 鳳 山：そうです。それと、もう一人大学の時からとても

お世話して頂いた方がこの近くにいらっしゃるんです。

合宿など色々面倒みて頂いて。大学の時には、その人が

第二の母親かと思ってました。今は女将さんです。

第二の母親だから、二人いても良いのかな。(笑)

インタビュー：第一のお母さんはどんな方ですか？

松 鳳 山：母親は・・・昔は厳しくて口うるさかったですけど、高校入るぐらいからは全然何も言われなくなって、理解ある応援支援者という感じかな。

インタビュー：一人の男として、人として見てくださったのね、きっと。

明るい方ですか。

松 鳳 山：明るいです。自分より喋るの上手なんじゃないかな。何回かインタビューに出てますからね。

インタビュー：食事もそうだけど、お酒も結構飲まないと駄目なんですよ？

松 鳳 山：自分はお酒は一滴も飲まないです。まったく駄目なんです。乾杯のビールで顔が真っ赤になってドクドクするんですよ、頭も痛くなるし。飲む練習もしたんですよ。飲まされたりしたんですけど、飲むと3日ぐらい体調が悪いですよ。

インタビュー：大谷先生に、3年ぐらいで横綱になりますって言ったことがあったでしょ？

松 鳳 山：入門するときですね。甘い考えだったですね！（一同爆笑）

インタビュー：今でも横綱を目指してるんですよ？

松 鳳 山：それは常に。つねに一応目指してます。

インタビュー：下半身の強化はやはり四股ですか？

松 鳳 山：四股です。四股と摺足。



2014年6月20日

ホテルニューオータニにて



インタビュー：頭を抑えられて歩かされる稽古があるでしょ？

松 鳳 山：摺足ですね、ぶつかり稽古の時ですね。

あれは辛いんですよ。

巡業で何回も横綱にやられましたけど、これで死ぬんじゃないかって思うぐらい辛いです。

足も辛いですが心肺機能が一番辛いです。息が出来なくなってくるんです。

インタビュー：今度、駒大は開校130周年記念で9階建ての校舎も建つというので、それまでに大関、
じゃなくて横綱になってくださいよ。

松 鳳 山：頑張ります。

インタビュー：横綱に一日も早くなってくださいよ。

松 鳳 山：はい、頑張ります。

インタビュー：私達の誇りですから。



松鳳山へのインタビューに続いて、松鳳山の故郷福岡に飛んで、お母様にインタビューをしました。

インタビュー：どのくらいの体重で生まれましたか。

松鳳山の母：3300グラムと平均的な赤ちゃんの体重でした。

インタビュー：いつくらいから相撲を始めましたか。

松鳳山の母：小学校2年生頃から体重が増え、相撲大会に出場するようになりました。

中学校では柔道部に入部し、高校の時に相撲部に誘われ入部しました。

高校に入学した時には100キロとなっていました。

駒澤大学出身の先生から駒澤大学を目指すように推薦され、駒澤大学に入学しました。

インタビュー：勝負に関わるスポーツですがお母様としてどのような気持ちで応援していらっしゃいますか。

松鳳山の母：仏壇に必勝祈願、お宮参りをして、怪我無く頑張れるよう祈っています。

九州場所には、松鳳山の後援会がバスで応援に駆けつけてくれます。

インタビュー：結婚され、子供もできて、安心されましたか。

松鳳山の母：本人は、子供が3人欲しいと言っています。

※松鳳山関のお母様も会員として入会しておられます。

松鳳山関は横綱を目指しておられるでしょう。駒澤大学、駒澤会も大応援をしております。

(お母様にお会いして、松鳳山を優しく見守っておられる事が伝わってきました。)



左から荒井、松鳳山のお母様、赤堀、木村



平成26年新年賀詞交歓会報告

総務部部長 山田直重

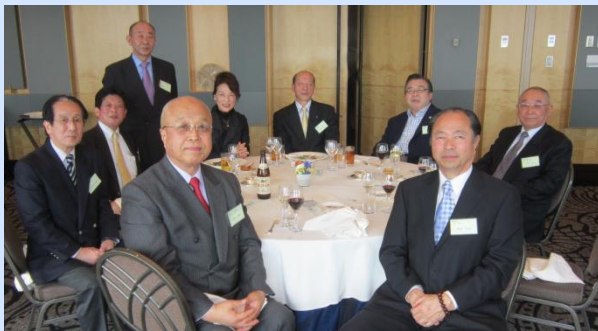
平成26年2月9日の日曜日午後1時より、駒澤大学駒澤会新年賀詞交歓会が渋谷のセルリアンタワー東急ホテル39階のタワーズサロン「ソレルの間」で開催されました。前日の土曜日には久しぶりに東京の街にも雪が降り積もり、会場の窓から見下ろす景色の中には、まだ沢山の雪が残っていました。そんな足下の悪い中にもかかわらず大勢の会員の皆様のご出席されました。駒澤会主催となる新年賀詞交歓会も、3度目となりました。

初めに駒澤会森屋正治会長がご挨拶をされました。駒澤大学からは池田魯参総長先生と廣瀬良弘学長先生がご挨拶をされました。大学では駒沢キャンパスにおいて「開校130周年記念棟」の建設計画が進められており、それに対するご協力ご寄付をとお話をされました。また、教育後援会からは高橋俊夫会長がご挨拶をされました。その後、大谷哲夫駒澤会前名誉会長による乾杯のご発声に続いて暫しの歓談となりました。

お食事の方は金目鯛のスチームッキングや牛フィレ肉のグリルなどフルコースの料理がテーブルを彩りまして皆様とてもご満足のご様子でした。

食事の後には恒例のビンゴ抽選会も行われ、総務部の面々で事前に買い揃えた景品をまえに大いに盛り上がりました。

最後に駒澤会田中隆一副会長が閉会のご挨拶をされた後、参加者全員で記念撮影をしてお開きとなりました。





駒澤会入会の呼びかけ

25年度卒業式に於いて

監査 市川よし子

駒澤会は会員の会費によって、毎年の奨学金の原資としております。年々減っている入会者数は、特にこの3年余り激減の一途で、賛助会員、維持会員を含めて2桁に落ち込んでおります。

根本的な解決策は勿論考えなくてはならない事ですが、とりあえず今出来る事の1つとして、卒業式当日に、広報部を主体として時間のとれる方々で宣伝活動に行っていました。

当日は午前と午後2回の卒業式に合わせて、昨年より目立つように駒澤会の表示紙を大きく貼り、講堂入口二手に分かれてテーブルを置きました。

父母の入、退場の都度、入会案内をお見せしながら声を掛けて行きます。(ちょっと勇気のいる行為ですが、ここは駒澤会の為！)

通りすぎてしまう方が大半ですが、中には「もうはいりました」とか、内容を詳しくお聞きになる方もいらして少しなりとも手ごたえはあったと思います。

そのせいいかどうかは分かりませんが、今年の入会者数は昨年度同時期より増えております。

地道な活動ですぐに結果が出るとは思いませんが、多方面に渡って宣伝、アピールを！！今後も続けて行くことも大切だと思います。



事務局の人事異動について

平成22年4月より駒澤会事務局でご活躍された、田村元樹(たむらもととき)さんが人事異動により平成26年4月1日付けで異動いたしました。4年間のお付き合いがありましたので、異動されるのは残念です。しかし、異動先は学生部の教育後援会で、駒澤会と教育後援会とは交流も深く懇親会等もあり、まだまだお付き合いは続きそうです。

代わって岡田元晃(おかだもとあき)さんが教務部より異動してきました。岡田さんもこれから駒澤会事務局として尽力され、ご活躍されることでしょう。皆様よろしくお願いたします。



初夏の親睦会報告

厚生部部长 木村 朋子

関東も梅雨入りし6月初旬から雨が続いて天候が気になっておりましたが、6月14日に初夏の親睦会を行いました。当日はなんと約10日ぶりの晴天に恵まれました。駒澤会会員の皆様の日頃の行いのおかげでしょうか。

今回の初夏の親睦会は青梅市にある「井中居」にてお食事をいただき、その後近辺散策の予定でした。お店に到着しますと、「井中居」の佇まいに一同感激。お庭に入ると門からエントランスへ静かな別世界に入ったような雰囲気でした。そして、お食事は言うまでもなく全て美味でした。色鮮やかな前菜から始まり、お豆腐、鮎、焼き合わせ、汁物、おこわ等々。皆様より雰囲気の良い美味しいお店だったとの嬉しいお褒めの言葉をいただきました。とても良いお店でまた駒澤会でもプライベートでも利用したくなるお店でした。

続いて当初のスケジュールから少し変更いたしまして、「井中居」から車で程近い「吹上しょうぶ公園」に行きまして。6月中旬は菖蒲の見頃。まさに満開の菖蒲が紫、青、白等々一面に広がっていました。季節のお花をみるのはとても気持ちが良いものでした。

そして、その後は青梅駅に行き、住吉神社、昭和レトロ商品博物館等を散策いたしました。

尚、10月初旬には秋の研修会を箱根で行う予定です。当日は廣瀬学長先生に講師としてお越しいただき講演をしていただく予定です。充実した企画になるよう準備させていただきます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。



駒澤会奨学金について

平成26年度、下記のとおり奨学金が支給されました。

支給金額 総額500万円（20万円×25人）

奨学金授与式 平成26年7月16日（水）

出席者 学長、駒澤会執行部

※詳細は駒澤会だより22号及び駒澤会HPでお知らせいたします。

各部入部のお誘い

維持会員の皆様へ

維持会員としてご登録頂いている皆様に、各部への入部をお誘いしています。

会の運営を3つの部に分かれて担当して頂くこととなりますが、**近郊の方又は遠方でも2～3カ月に一度の会議に出席いただける方は是非ご検討ください。**

皆様の入部をお待ちしています。希望される場合は、事務局：岡田までご一報ください。

TEL：(03) 3418-9189

FAX：(03) 3418-9190

総務部

駒澤会の規程や運営費について検討し、駒澤会の活動がスムーズに行われるよう全体的な調整をしています。女性もたくさん活躍しています。

広報部

会報誌「駒澤会だより」の発行やPR活動を中心とし、制作経験の有無にかかわらず、率直に意見を出し合い、和やかに進めています。

厚生部

行事の準備で会員が楽しく有意義な時間を過ごせるよう活動しています。旅行好きな会員も多いため、なかなか訪れる機会のない場所など考え活動しています。

基金管理委員会からのお知らせ

基金管理委員会では、昨年度の活動として、基金の運用・管理をベースに「基金管理の基本方針の検討・確認」、「会報を通じて運用状況の報告」を実施して参りました。

今年度も引き続き、会報による運用状況の報告を考えておりますが、基金の運用・管理につきまして会員の皆様からのご意見・ご要望をお待ちしております。

駒澤会基金運用状況のお知らせ

運用先	4月～7月までの利金	備考
三菱UFJモルガンスタンレー証券	183,146円	グロソブ（毎月決算型）
みずほ銀行	9,922円	定期預金利息
世田谷信用金庫	2,812円	定期預金利息
合計	195,880円	

基金管理委員長

編集後記

7月にはサッカーワールドカップ、2月にはソチオリンピックが終了した。日本としてサッカーワールドカップでは残念な結果であったが、オリンピックではメダル、金・銀・銅と獲得した。若い青年たちの大活躍と、41歳レジェンド葛西選手の銀メダルと大感動のドラマでした。

駒澤大学生達もスポーツ界で頑張り、誇りです

私達駒澤会も学生達の応援として、優秀な学生達に奨学金を授与し続けて一千人を越えることができました。

前途有望な学生達のために、駒澤会が頑張っています。

駒澤大学教育後援会、駒澤大学同窓会、駒澤会の三本柱が輪になって、駒澤大学の学生達が世界中で活躍し社会に役立つ人間として、後輩に夢と希望を与えられる人材となってくれるよう応援しています。

広報部部长 荒井喜久子

事務局からのお知らせ

大学行事予定

7月15日(火) 前期授業最終日
7月29日(火)～9月15日(月)
夏季休業期間
9月16日(火) 後期授業開始日
9月20日(土) 9月卒業式
10月15日(水) 第132回開校記念日
11月 1日(土)～2日(日)
オータムフェスティバル

駒澤会行事予定

7月16日(水) 駒澤会奨学金授与式
10月 4日(土)～5日(日)
駒澤会秋の研修会
12月上旬 駒澤会忘年会
2月 駒澤会新年賀詞交歓会(予定)

駒澤会だより 第21号

発行日:平成26年7月28日
発行者:駒澤大学駒澤会 広報部
154-8525 世田谷区駒沢 1-23-1
TEL:(03)3418-9189
FAX:(03)3418-9190

駒澤会ホームページ<駒澤大学HP内>

<http://www.komazawa-u.ac.jp>
→ 在校生父母の方をクリック
→ 駒澤会をクリック

駒澤大学
駒澤会

